

令和 6 年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	特 3		学校名		県立霞ヶ浦聾学校								学校長名		鈴木 広美			
副校長名						教頭名		豊崎 修敬					事務（室）長名		梅澤 美由紀			
教職員数	教 諭	24	養 護 教 諭	1	常 勤 講 師	6	非常勤 講 師	1	実 習 助 手		寄 宿 舎 指 導 員		事務職員	2	技 術 職員等	8	計	48
幼児・ 児童・ 生徒数	部		1 年（3 歳児）		2 年（4 歳児）		3 年（5 歳児）		4 年		5 年		6 年		合計		合計 クラス数	
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
	幼稚部		2		3	6	2	1							7	7	5	
	小学部		3	2	1	1	1	1	0	0	3	1	2	3	10	8	8	
	中学部		2	0	0	0	2	0							4		2	
	高等部																	
	専攻科																	
	計															21	15	36

2 目指す学校像

- ◆安全・安心な環境のもと、楽しく元気に学べる学校
- ◆一人一人の学びを大切にし、豊かなコミュニケーションと日本語の力を育み、生きる力を育てる学校
- ◆幼児児童生徒、教職員みんなが自信と誇りをもてる学校
- ◆保護者、社会、関係者と共に歩む開かれた学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項 目	現 状 分 析	課 題
学校経営	○様々な災害や事故を想定し、安全安心な環境で生活できるよう、幼児児童生徒の実態を把握するとともに、外部専門家の指導助言を受け、更なる視点をもった点検、整備を実施することで、現状での対応を検討し、改善を図ることができている。本年度の幼児児童生徒の実態や校舎の老朽化に伴い、より細やかな視点での安全管理が必要である。	・日頃より安全点検を行い、計画的に改善策に取り組む。 ・外部専門家からの指導助言を受け、より実際の危機管理マニュアルの見直し、シミュレーションを行う。 ・保護者や関係機関と連携した幼児児童生徒の実態に応じた防災教育を実施し、より安全な生活を送ることができるようにする。自己評価を行ったり、取り組みを家庭に知らせたり、自らの健康と安全を意識した実践力を育成できるようにしていく必要がある。
	○ベテラン職員の異動や退職などが進み、教諭の豊教育経験年数が浅くなる傾向にあり、職員全体が豊教育の継承に必要性を抱いている。学校全体での研修意欲が高まっている。	・今後も計画的に聴覚障害教育に関する基礎研修を実施する。教職員の課題を明確にし、校内の教職員の専門性を活かし、日々の研修の機会を大切する。
	○早期教育相談で実態に応じた回数の相談を行っている。通級指導教室では小学生18名、中学生5名に対して原則週1回の指導を行っている。 ・幼児教育施設・小学校等への巡回相談支援や児童生徒への定期教育相談を行っている。市町村教育委員会などからの依頼を受けての研修会の実施や聴覚障害についての理解を促す授業の実施など理解啓発を進めている。	・本校の相談支援について周知を進めるとともに、教育的ニーズに応じた出向き参観・助言などの支援を積極的に行う。障害に関する理解啓発を行い、継続して支援できる体制づくりに努める。
	○地域とともにある学校づくりに向けて、本年度からコミュニティ・スクールが始まる。昨年度、導入に向けて、本校の実状把握のため、教職員にアンケートを実施した。強みや弱みを把握することができ、課題が明確になった。 学校公開や地域のセンターでの作品展を実施、小学校区域の会議での本校の概要説明を行った。地域や関係機関等とのつながりが増えている。	・コミュニティ・スクールのねらいを明確にし、本校、地域の課題解決に向けて、どのように進めるか、今後の検討が必要である。 ・学習場面における地域連携については、これまでの本校の取り組み（つながり）を基に、各部、学年で検討し、実践につなげる。
	○働き方改革については、全教職員の時間外在校時間が月 45 時間以内、年間 360 時間以内である。新年度に向け、行事や会議の精選を行うことができた。	・幼児児童生徒の実態の多様化に伴い、授業づくりの効率化、時間確保を検討する必要がある。

学習指導	・学校研究テーマ「主体的・対話的な学びを目指して～聾学校の専門性を活かした個に応じた指導のあり方～」の下、関東聾学校定例研究会に向けて外部講師の助言を受けながら、全校、各部研究テーマの下、授業づくりの実践研究に取り組んだ。幼児児童生徒一人一人が主体的・対話的に学ぶ姿をイメージし、指導支援に取り組み、確かな学びの力に結び付いた。	・昨年度の研究の成果を日々の授業の中で検証すると共に新たな課題解決に向けた授業改善に取り組む。 ・「主体的、対話的で深い学び」の視点からの授業づくりを全体のテーマとし、各部の課題に焦点を当てた研修に取り組む。 ・聴覚障害以外の障害を有する幼児児童について、実態把握を十分に行い、個別の指導計画を作成、活用し、より個に応じた指導支援が必要である。 ・担当授業の兼ね合いもあり。相互に参観する機会、研修成果を共有する機会が少ない。授業づくりの視点を明確にし、参観し合い、系統的な指導支援に取り組む。
------	---	---

4 中期的目標

- 健康・安全に生活する力の向上を図るとともに、自然体験や社会体験を通した豊かな人間性の育成に努める。 - 幼稚部、小学部、中学部の系統性のある一貫した教育を推進する。自ら主体的に学ぶ態度を育成し、基礎・基本の定着と確かな学力の向上を図る。 - 聴覚活用とともに、多感覚を活用した指導を取り入れ、確かな言語発達と豊かなコミュニケーション力の伸長を図る。 - 保護者、地域、関係機関との連携を密にし、教育実践の深化を図るとともに、安全・安心で信頼される学校づくりを推進する。 - 関係機関や地域の幼児教育施設、小・中・高等学校への専門性を活かした支援の充実を図る。 - 教師が意欲的に研究修養に励み、自らの指導力・専門性の向上に努め、確実に継承する。 - 服務規律の確保とコンプライアンス意識の向上、よりよいワーク・ライフ・バランスを意識した働き方の努め、生き生きとした姿を幼児児童生徒に示し、幼児児童生徒のキャリア発達に寄与することができる。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 安全安心、清潔で整備された学校づくりと心身共に健康な幼児児童生徒の育成	① 安心安全な教育環境の整備 【危機管理】 ② 自ら健康・安全に生活する力の向上 (健康教育、防災教育) 【自己管理能力の育成】 ③ 信頼し絆を深める人間関係づくりの推進 【豊かな心の育成】

2 聴覚活用とコミュニケーション力の伸長による確かな日本語の育成	① 個に応じたコミュニケーション手段の活用の推進【伝え合い、分かり合う喜び】 ② 日本語による「読み」「書き」能力の向上【確かな日本語の習得】 ③ 情報を正しく理解し、適切に表現する力の育成【豊かな表現力の育成】
3 基礎・基本の定着と確かな学力の向上を目指す授業づくり	① 専門家と連携した「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善【授業改善】 ② 個別最適な学びを重視した効果的なＩＣＴ活用の推進【ＩＣＴ活用】 ③ 自立と社会参加に向けた教育活動全体を通したキャリア教育の推進、進路指導の充実【キャリア発達、進路指導】
4 地域社会と連携した開かれた教育活動と専門性を活かした地域の特別支援教育の充実	① 経験を広め、豊かな人間性と社会性を養う地域と連携・協働した学習活動、交流及び共同学習の充実【地域とともにある教育】 ② 早期教育相談、通級指導教室の充実【聴覚障害教育の保障】 ③ 幼児教育施設、小・中学校等に在籍する聴覚障害児や担当教員への支援【専門性を活かした支援】
5 信頼される学校づくりと働き方改革の推進	① 服務規律の遵守とコンプライアンス意識の向上【コンプライアンス】 ② 教職員一人ひとりの Well-being を働き方改革【働き方改革】